

清水合金製作所

連載シリーズ④

営業マン

数珠つなぎ

名古屋営業所
中村 岳樹 氏イチオシ
製品面間400ミリで全面採用
顧客ニーズ丁寧に読み解く

最後を飾るのは、名古屋営業所の中村岳樹氏。新卒採用で同営業所配属となり、今年で4年目を迎えるフレッシュな営業マンだ。昨年度までは石川、富山、三重の3県、今年4月には静岡、愛知県豊橋エリア、三重県に担当地域が変わり、気持ちを新たにバルブの営業や納入製品のメンテナンス提案などで日々東奔西走している。こうした努力が結実し、イチオシ製品『耐震補修弁』の全面採用に漕ぎ着けた。

耐震補修弁について「ボール形補修弁の本管側に伸縮可とう構造を一体化したもので、過大な抜け出し力や曲げ荷重が加わると初期の保持状態が解除され、伸縮可とう動作が可能となります。空気弁や消火栓などの管路付属具が弁室壁に衝突する際の反力をしなやかに吸収し、従来は困難と考えられていた縦配管の耐震化を実現できる画期的な製品です」と紹介する。

管路システム全体を強靱化する上で、埋めきれなかった最後のピースが埋まった。さらに、応急復旧や消火活動の維持のための付属具の強靱化がいち早く進むよう同じ施工性、同じ価格、にこだわった。「据え付けは敢えてフランジ接合とし、伸縮可とう構造を一体化しながらも面間寸法150ミリを実現しています。本製品を採用頂くにあたり、障壁となる設計変更や積算変更、現場での工数変更も不要です」と説明。さらに、面間寸法200ミリ以上の製品など、ラインナップを拡充している。

こうしたメーカー側の強い思いと、現場の水道事業体職員

の間に横たわる溝を中村氏が丁寧に埋める。「フランジ付きT字管と補修弁の間にフランジ短管を使用されている水道事業体では、縦配管をどのように耐震化すべきか悩まれていました。耐震補修弁の性能には興味を示される一方、フランジ短管部分の耐震性に疑問を抱かれていたため、面間寸法400ミリの製品を提案しました。短管と補修弁を耐震補修弁に更新することで接合箇所も減り、上部位置のレバーで開閉作業を行うことも従来通り可能です。この提案が高く評価され、全面採用いただくに至りました」と笑顔を見せる。



全面採用された面間寸法 400 ミリの製品

耐震補修弁



日々の研鑽をより良い提案につなげる

耐震補修弁の耐震性能に関する相談や問い合わせが増えるなか、宮島昌克・金沢大学教授が監修する動的な耐震性能実験の報告内容が強力な訴求力を放つ。

「水道施設に甚大な被害を及ぼした過去の大地震の中でも、特に破壊力が強い波形を振動台で再現し、台に固定した付属具一式を弁筐に衝突させる実験です。実際の現場よりシビアな設置環境の中で過去2回実施しましたが、問題なく性能を発揮できることが確認されています。過去の大地震に耐えられる製品なのか否かという分かりやすい判断基準で、お客様に安心して使って頂けるのは大変心強いです」と語る。

今後は「耐震補修弁のようなオリジナル製品はメーカーの知恵と努力が詰まっています。お客様が抱える事業課題の克服に貢献できる自社製品を誇りに思い、他の製品も含めより良い提案ができるよう研鑽を積みみたい」と意気込みを見せた。

宮島教授のコメント



この耐震補修弁は、更新イコール耐震化を具現化した素晴らしい製品である。すなわち、耐震性能が付加されているのにもかかわらず価格が従来品と変わらず、据え付け方法も全く同じで、本製品を採用するにあたって設計変更や積算変更が全く必要ないという優れたものである。この製品に更新するだけで耐震化を実現できるというものである。耐震性能については私の研究室で2年にわたり振動試験を行っており、オーバースペックと感ずるぐらいの耐震性能を発揮することが確認されている。また、伸縮可とう後の傾き矯正治具も準備されており、この点も評価できる。